

(様式2)

公立大学法人青森公立大学

平成24年度 業務実績評価書

平成25年8月

青森市地方独立行政法人評価委員会

目 次

I	評価の基本的な考え方等	1 頁
II	全体評価	
1	総評	3 頁
2	業務の実施状況	4 頁
3	組織、業務運営等に係る改善事項等	5 頁
III	項目別評価	
1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	5 頁
2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	6 頁
3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	6 頁
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	7 頁
5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	7 頁
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	8 頁
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	8 頁

I 評価の基本的な考え方等

青森市地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人青森公立大学（以下「法人」という。）の平成24年度における業務実績について評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

1 項目別評価

調査・分析の結果を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事業の外形的な進捗状況を評価する。

【大項目】

- ①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）
- ②教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）
- ③教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画
- ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための計画
- ⑥自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画
- ⑦その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

【5段階評価】

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、平成24年度における業務実績の全体について、記述式により市民がわかりやすい総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

3 青森市地方独立行政法人評価委員会委員

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	林 光男	青森商工会議所会頭
委 員	宮下 俊郎	日本銀行青森支店長
委 員	井畑 明男	株式会社青森銀行顧問 (前社団法人青森県経営者協会会長)
委 員	石田 隆志	日本労働組合総連合会青森県連合会会長
委 員	成田 正行	公立大学法人青森県立保健大学事務局長

Ⅱ 全体評価

1 総評

公立大学法人青森公立大学は、経営経済の分野の諸問題について地域性を軸にした理論的・実証的研究を推進し、その研究成果に基づいて、広く社会に有為な人材を輩出し、更には大学が存在する地域を中心として国内外に大学が持つ知的財産を還元し、貢献するという使命を帯びている。

平成21年度に公立大学法人に移行し4年目を迎え、現行の中期目標期間（平成21年度から平成26年度）の後半に入った平成24年度は、地域連携センターによる総合的な地域貢献体制を確立し、積極的に地域貢献への取組を推進するとともに、柔軟かつ弾力的な事業展開により、業務運営の改善及び効率化等により利益を上げるなど、年度計画で予定していた各取組については、ほぼ計画どおり着実に実施しており、中期計画の達成に向けて一部努力を要する事項が認められるものの、総じて、順調な進捗状況にあると評価できる。

年度計画を十分には実施していないと判断される取組及び実施しないと決定した取組については、その内容を十分に精査し、今後の取組の強化・改善を強く求めるものである。

これらの対応については、中期目標の期間も残り2ヵ年となったことを踏まえ、次期中期計画の策定を見据え、これまでの実績の把握・分析を行うとともに、その結果を実効ある取組として、年度計画及び次期中期計画に適切に反映させること。

また、業務実績報告書の記載に当たっては、ホームページ等において、広く一般に公開することを踏まえ、業務内容及び評価内容が一見して明確になるよう、引き続き工夫されたい。

今後も、理事長、学長を中心に、教職員が一致団結して青森公立大学に求められている使命を明確に果たし、これまで以上に地域に貢献する高等教育機関としての機能を発揮するとともに、中期計画の着実な実施を強く期待するものである。

2 業務の実施状況

全体として、年度計画に定めた実施項目はほぼ着実に実施されており、大項目として定めている教育、研究、地域貢献、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、その他業務運営の7つの各大項目において、十分には実施していない取組も一部認められるものの、特に大きな問題は見られない。業務の実施状況は、中期目標の達成に向けて順調な進捗状況にある。

大学の教育研究の質の向上に関しては、「教育に責任を持つ」を合言葉に、資格試験対策の充実や退学勧告制度の改善として成績不振者に対する指導を強化するなど、学生の入学から進学・就職まで、きめ細かな対応を行うとともに、学部生の大学院授業の履修や、大学院特待奨学生制度の運用を開始するなど、学ぶ意欲のある学生に対する真摯な取組に対して、大学としての責任と意欲を高く評価する。

地域貢献に関しては、地域コミュニティ再生に向けた中核的な知の拠点としての機能を発揮するため、地域の企業との連携をはじめ、新たに西目屋村、青森市と連携して、学生を活用した地域再生・活性化に積極的に取り組むとともに、社会人に対するエクステンション教育、高校生を対象とした出前講座など、高校や大学及び地域との連携活動は着実に実施されている。

また、公開講座、講演会などの研究活動の地域への還元は、計画を上回って実施されるとともに、国際芸術センター青森については、国際芸術センター青森運営会議を設置し、利活用拡大策の検討、教育プログラムの充実により、着実に来場者の増加につなげるなど、より積極的な地域への貢献を踏まえた体制強化は高く評価できる。

業務運営及び効率化に関しては、教職員等を対象とした雇用・報酬等に係る人事ルールの抜本的な見直しを図るとともに、いわゆる大学の「見える化」を推進するために、季刊誌の発行、議会への近況報告会の開催など、市民等に対する広報活動の強化を図った。

財務内容の改善に関しては、国の補助事業及び科学研究費補助金の獲得など、様々な外部資金獲得の取組が推進されたことに加え、経費削減の取組により、剰余金が生み出されたことは高く評価できる。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供に関しては、新たな教員の自己評価制度を構築するとともに、昨年度行われた第三者機関の外部認証評価結果における努力課題について、速やかに可能なものから順次改善が行われており、評価結果を積極的に活用し、改善する仕組みが良く機能している。

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。

Ⅲ 項目別評価

1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>学生の育成に関して、就職率の向上のため、産学連携協議会を開催し、直接企業から情報収集を行い、その情報を学生のみならず、父兄にも提供するなど、大学と父兄が連携して学生をサポートするとともに、新たな取組として、予備校と連携して公務員試験対策を行うこととし、国家公務員や地方自治体の試験情報の提供や面接、論文の試験対策まで、特色のある指導を行ったことは、その結果として、大学間の競争力向上や入学希望者の増加につながるものとして評価できる。</p> <p>教育内容等に関して、退学勧告を受け自主退学した学生で、再入学を目的に科目等履修生となった学生への個別指導や面談を実施するなど、学生と真摯に向き合う姿勢は、「教育に責任を持つ」大学として高く評価できるものであり、今後も、本学の特色の一つである退学勧告制度の適正な運用を期待する。</p> <p>また、フィールドワーク等による実社会を教育現場とする体験的学習を継続し、学生自らの体験から生まれた問題意識に基づく解決策や事業を構想させるなど、就職後において、即戦力となる人材の育成に力を入れたことは、就職先からの評価にもつながることから、就職率の更なる向上が見込まれるものとして評価できる。</p> <p>学生の受け入れに関して、学部生の大学院授業を可能とする取組を継続して実施するとともに、社会人や大学院への学部から直接進学する学生に対しての特待奨学生制度を設け、進学しやすい環境を整えた。</p> <p>他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>研究内容に関して、基礎的及び応用的研究全般にわたる推進体制を強化するため、研究活動に対する公正な評価システムとして戦略的研究助成事業を確立したことは、大学の活性化と地域貢献を促進するとともに、社会へのアピールや教員の研究意欲の向上につながることから、研究の質の向上のみならず、教育の質の向上にもつながるものとして評価できるものであり、その研究成果が、地域貢献として結びつくことを期待する。</p> <p>研究水準及び研究成果に関して、地域に貢献する高等教育機関としての機能を発揮するため、計画以上に公開講座を実施し、積極的に研究成果を社会に還元したことは評価できる。</p> <p>一方、地域連携に関するポリシーの整備、教員サバティカル制度（長期研修制度）の改善など、これらの課題については、学内の各審議機関が密接に連携して、早急に具体的な取組を行うことが求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>地域連携の強化に関して、地域連携センターによる総合的な地域連携体制を確立し、地域コミュニティ再生に向けた中核的な知の拠点としての機能を発揮するため、地域の企業との連携をはじめ、新たに西目屋村、青森市と連携して、学生を活用した地域再生・活性化に積極的に取り組むとともに、社会人に対するエクステンション教育、高校生を対象とした出前講座など、高校や大学及び地域との連携活動は着実に実施されており、当該センターの役割が有効に機能している。</p> <p>国際芸術センター青森については、新たに国際芸術センター青森運営会議を設置し、教育プログラムや展覧会等の各種事業の改善・充実を行うなど、着実に来場者の増加という成果につなげたことは、積極的な地域への貢献として高く評価できるものであり、引き続き、その内容の充実に努めていただきたい。</p> <p>また、地域の企業、行政機関等との連携については、大学が持つ知的財産を還元し、貢献するという使命を果たすべく、これまで以上の積極的な連携が求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>運営体制の改善に関して、戦略会議において、法人運営に関する包括的な課題検討を実施するなど、積極的に組織体制の改革に取り組んでおり、今後、ますます戦略的かつ機動的な大学運営が期待される。</p> <p>人事の適正化に関して、多様で柔軟な人事制度を構築すべく、教職員等を対象とした雇用・報酬等の人事ルールを抜本的に見直し、引き続き、人事ルールや人事の適正化に向けて検討していくこととしている。これらの検討と併せ、人事評価システムの構築及び定員管理計画の策定についても、中期計画の達成には取組の強化が必要である。</p> <p>広報活動の推進に関して、地域に開かれた大学として、大学情報をより効果的に発信するため、季刊誌の発行、議会への近況報告会の実施、ホームページの内容充実など、市民等に対する広報活動の強化を図った。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、受験生の確保のため、積極的に県外の高校にも訪問し、入学選抜に関する情報提供等を行った。今後も、継続した入学志願者の増加につながる取組が求められる。また、外部研究資金の獲得のため、教員データベースを活用し、最新の教員の実績（研究シーズ）を公開するとともに、文化庁と文部科学省の補助事業に採択されたことは評価できるものであり、引き続き、国等からの支援が受けられる事業の育成・開拓に、目的意識を持って真摯に取り組まれない。</p> <p>経費の抑制に関して、将来ますます厳しくなる財務状況を見据え、事務の集約化及び効果的な外部委託を実施するとともに、財務状況を定期的に分析するなど、積極的に効率的な予算の執行に取り組んでいる。</p> <p>その他の事項に関しては、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>評価の充実に関して、新たに教員の自己評価方法を策定し、自己評価委員会において実施されたことは、適正な人事評価と高い教育水準を維持することにつながることから高く評価できる。</p> <p>また、第三者の外部認証評価結果に関する努力課題について、可能なものから順次改善が行われており、評価結果の適切な活用が図られている。今後とも、この評価結果及び自己点検評価を有効に活用し、これまで以上に魅力ある大学となるよう改善計画の策定・実施を確実に進めることを期待する。</p> <p>評価結果の活用に関して、情報共有を進めることで、教職員の意識啓発を向上させる目的から、FD（教員の教育・研究の質の維持・向上を図るための取組）、SD（職員の資質向上・能力開発のための取組）を合同で行うなど、積極的な取組と認められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	評価	3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
<p>施設設備の整備・活用等に関して、具体的な貸出基準等の整備を図るなど、自主財源の確保に向け、早急に有効活用の促進を図ることが求められる。</p> <p>安全管理に関して、大雪による交通機関の乱れに伴う入試時間の繰り下げなどに対応するため、個別の緊急マニュアルを作成し、運用するなど、危機管理体制の強化が着実に進められている。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、おおむね順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			